

日本溶接協会マイスター認定

2019年11月27日（水）、東京プリンスホテル（東京都港区）で一般社団法人日本溶接協会の創立70周年記念式典が開催されました。式典では、「日本溶接協会マイスター」の第1回認定式が行われ、企画開発部の森川順三さんが認定証を授与されました。

日本溶接協会マイスター制度は、優秀な溶接技能を有し、溶接業界へ技能教育などを通じて貢献のあった方を顕彰するものです。これにより、優れた溶接技能を持つ方の社会的地位を高めると共に溶接教育を拡大し、技能伝承の強化と溶接品質向上を図ることを目的として、2019年度から導入され、今回は溶接技能者22名、マイクロソルダリング（微細ハンダ付け）要員2名の計24名が選出されました。

森川さんは1971年入社以来、石油・化学分野において溶接技術の普及に従事し、特殊材料の溶接については数多くの施工技術の開発に携わり、溶接技術の向上に大きく貢献しました。また、日本国内のみならず中近東諸国や中南米にも活躍の場を広げ、諸外国の溶接関係者にOJTを通して自身が培ってきた溶接技術を実践・指導しました。2009年以降は当社の若手溶接士の育成にも尽力し、教え子の中から全国溶接技術競技会で「優良賞」を5名、九州・沖縄地区溶接技術競技会で「1位」を2名輩出するなど、高い指導力を誇ります。現在も当社のシニア社員として精力的に地域の学生および地場企業の溶接関係者に溶接技術の実践・指導を行い、地域の溶接技術水準の向上に努めています。これらの実績が評価され、今回の認定に至りました。



表彰を受けた森川さん

